

豆力士103人白熱の取組

阿南市主催のスポーツ大会としては最も長い歴史を持つ第47回阿南市こども相撲大会が、5月5日、椿町中学校相撲場で開催され、市内外の小中学校から103人の豆力士が熱戦を繰り広げました。

大会は、男女それぞれ団体戦と個人戦が行われ、先鋒、中堅、大将の3人がそれぞれ対戦する小学生男子団体戦には、8校14チームが出場。短パンにまわし姿で白熱した相撲をとる子どもたちに、先生や保護者から大きな歓声や拍手が送られました。

決勝まで順当に勝ち進み、決勝戦では橘小学校に3対0で完勝した中野島小学校Aの粟田琉聖さん(小6年)は、「準決勝で危ない場面もありましたが、何とか立て直すことができました。とてもうれしいです。」と満面の笑みを浮かべていました。



小学生男子団体戦で優勝した中野島小学校の(左から)粟田さん、浮橋さん(小5)、四宮さん(小4)。

緊急速報メール 配信サービス拡大



NTTドコモに続き、KDDI(au)やソフトバンクでも「緊急速報メール」による災害・避難情報の配信サービスを始めました。

災害時や緊急時に市から災害・避難情報を携帯電話へ一斉配信し、ポップアップ表示や専用の着信音とバイブレーションなどでお知らせします。申込不要で、月額使用料や通信料もかかりません。

配信する情報

▼市が発令する避難勧告・避難指示▼
気象庁(台)が発表する津波注意報・津波警報・大津波警報

※通話中、パケット通信中や電波状態が悪い場所では緊急速報メールを受信することはできません。

※緊急速報メール対応機種は、各社のホームページをご覧ください。

問い合わせ

防災対策課(☎22-9191)へ

健康に「焼き筍」がおすすめ



阿南市特産の筍を健康的に食する方法を知ってもらおうと、徳島県薬草協会が、4月26日、橘町の竹林で焼き筍の研修会を実施しました。

参加した薬草協会の会員約50人は、掘り立ての筍を炭火で丸焼きにして試食。苦味が少なく、風味豊かな筍本来の味を堪能していました。

筍はもともと苦味が強いので、一般的に米ぬか等で湯がいてあく抜きして食されますが、その過程で健康に有効なジベレリン(水溶性)などの成分が失われてしまうため、薬草協会では、薬効成分を逃さず食べられる焼き筍をすすめています。

研修会に参加した湯浅光代さん(67歳・福井町)は、「家でも筍は焼いて食べています。夫のすすめで食生活に薬草を取り入れるようになり、今では家族ぐるみで健康維持に努めています。」と話していました。

同協会会長の松下藤夫さん(79歳・橘町)は、「焼き筍は体の痛みを減少させる効果があるので、ぜひ試してほしい。」と話していました。

市政会館に東京事務所を開設



開設式典であいさつする岩浅市長。(5月11日)

「風を読み、積極果敢に攻める行政」の実現に向け、四国の市町村では松山市に次いで2例目となる東京事務所を千代田区日比谷の市政会館に開設しました。

東京事務所の主な業務は、中央省庁をはじめとする関係機関の情報収集を行い、陳情・要望活動の戦略基地の役割を担う(ベースキャンプ機能)、東京に常駐する強みをいかして観光キャンペーンや物産のPRをする(プロモーション機能)、関東で活躍する阿南市出身者との交流により新たなふるさとネットワークを構築し、異業種交流による企業誘致やU・J・Iターン移住交流を図る(ネットワーク機能)などです。国会議員や在京の企業関係者など50人が参加して行われた開設式典で岩浅市長は、「政治・経済が大きく変革する中で、市民生活に直結する自治体としてその変化を迅速かつ的確にとらえ、将来を見据えた施策を積極的に展開していきたい。」と述べました。

椿泊漁協が新鮮な海の幸をPR



天然ハモと天然ワカメの吸い物を振る舞う椿泊漁協女性部の皆さん。

釣りハモや釣りタチウオ、天然わかめの水揚げ高が日本一といわれている椿泊漁業協同組合が、椿泊近海でとれる新鮮な海の幸をPRしようと、5月5日、椿泊漁協の荷捌き場で「第1回椿泊とれとれ新鮮漁業祭」を開催しました。

華やかな大漁旗が飾られた会場には、朝から大勢の親子連れが詰めかけ、活魚の即売や海の生き物と触れ合う「タッチングプール」などを楽しみました。また、天然ハモと天然わかめの美味しさを知ってもらおうと、同漁協女性部から吸い物が振る舞われ、来場者は風味豊かな海の幸に舌鼓を打っていました。家族と一緒に試食した中野瑛梨香さん(8歳・横見町)は、「わかめがおいしかった。やっぱり海の物は海で食べるのが一番です。」とにっこり。用意した400食は瞬く間になくなっていました。久米順二代代表理事組合長は、「魚食普及には、生きた魚を直接見て食べて、魚の本当のおいしさを知ってもらうことが一番。今年から本格的に収穫し始めた天然わかめは、蒲生田沖の潮流にもまれ、肉厚で甘味があるのが特徴で、こうしたイベントを通じて素材の良さをPRしていきたいと思えます。」と話していました。

竹の上を滑る「滑竹祭」を開催

阿南スケートボード協会による初めてのスケートボードコンテスト「滑竹祭」が、5月3日、羽ノ浦スポーツランドスケートボード場で開催され、県内外から集まった約100人のスケーターが、自慢の技を披露しました。

心配された雨も上がり、スケートボード場は朝から熱気に包まれました。午前中は同協会によるスケートボード教室が行われ、参加した約40人が同協会の会員から手ほどきを受けました。午後からは、クラス別のコンテストが開催され、エントリーした25人(うち県外7人)が9つのセクションで豪快な技を披露。難易度の高い技が決まると、観客席から歓声が沸き起こりました。

また、コース中央部には、竹で作られた特製のセクションが設けられ、阿南市ならではのユニークなコース設定がスケーターの好奇心を掻き立てていました。Aクラス決勝に進出した松本大貴さん(23歳・小松島市)は、竹のセクションはレールより滑らかで滑りやすく、風変わりを楽しめました。」と、爽やかな汗を流していました。



竹の上でデッキを滑らせ華麗な技を披露する松本さん。